

第6回 武蔵野市生涯学習計画（仮称）策定委員会会議要録

日 時	平成21年11月25日（水） 午後7時00分から9時00分	
会 場	武蔵野地域自由大学交流センター	
出席者	委員 （敬称略）	◎林大樹、○倉持伸江、飛山堪子、富川昌美、小町友則、白井龍男、 渡邊一衛、萱場和裕 （◎委員長、○副委員長）
	事務局	生涯学習スポーツ課長、（財）スポーツ振興事業団事務局長 ほか
	傍聴者	0名

【会議要録】

1 開会

2 （1）生涯学習計画に関連する他の計画の中間報告について

- ・事務局より、『武蔵野市学校教育計画』と『第三次子どもプラン武蔵野』の中間報告の概要について説明。

（2）①「中間のまとめ」に対するパブリックコメントについて

- ・事務局より、募集期間中に寄せられたパブリックコメントを紹介。
- ・主なご意見として、「これまでの市の実績の加筆」「第四期長期計画・調整計画との関係」「人材育成、専門職配置」「西部図書館跡の利用」「武蔵野プレイスの位置付け及び機能」「『武蔵野市の郷土史』作成・発行」「市民会館の機能転化による郷土資料展示」「生涯学習の具体的各論の総合調整の必要性」「自主的・自律的市民の学習計画に対する行政の支援強化」「用語としての生涯教育と生涯学習の使い分け」があげられ、意見ごとにパブリックコメントの取扱の方向性案を作成。

【委員長】 パブリックコメントの取扱は、前回の策定委員会でも確認したが、ご意見に対し即答する形ではなく、計画の最終報告に向けて検討させていくことになる。事務局の作成した取扱方向性案も同様のことを考えていただきたい。取扱方向性案で記載されている「武蔵野市歴史資料館（仮称）調査検討委員会」とはどのような機関か。

【事務局】 歴史資料館は昭和60年頃から経緯があり検討されている。現在の委員会は庁内の組織で、具体的に他市の事例を調査中である。委員会の設置は来年1月末までである。

【富川委員】 市民会館の今後のあり方に関する取扱案の内容はよいと思うが、最終的に施策の体系のどの部分に入ることを想定しているのか。

【事務局】 今後の検討になると思うが、基本目標5「学びの社会を支える地域資源の活用」などが考えられる。

【委員長】 前回の策定委員会で確認したとおり、回答は最終的な答申の時に出すこと

としたい。文面は検討過程をふまえ事務局で作成してほしい。

②答申に向けての課題の検討について

- 【小町委員】基本目標1-2施策の考え方「誰でも、いつでも、どこでも学べる機会の充実」と基本目標2「多様に学ぶ機会の拡充」はどのような考え方で整理しているか。文言を変えないと分かりにくいのでは。
- 【事務局】前者は、学びはじめをとらえ、誰でも学べる環境を整備していくことを想定した施策の考え方として整理した。基本目標2は多様な学びの種類、主だった分野をあげている。あくまで基礎である基本目標1と機会の充実としての基本目標2という考え方で整理した。
- 【委員長】「機会の充実」と「機会の拡充」ではほとんど同じ意味になってしまう。1-2施策の考え方「誰でも、いつでも、どこでも学べる機会の充実」は、「環境の整備」といった言葉のほうが適切では。
- 【富川委員】1-2-4基本施策「生涯学習相談の充実」の事業例として、一般の方が生涯学習をしたい場合に相談する事業例はないのか。
- 【事務局】あまり明確な事業例がないのは事実だが、現実的にそのような相談がどこまであるのかとも考えているところである。
- 【富川委員】例えば、ホームページの充実などは考えられるのではないか。
- 【事務局】ホームページのことは、5-5基本施策「生涯学習情報の共有化」のなかで位置づけられる可能性があると思う。
- 【萱場委員】事務局からの説明にもあったが、この体系図は事業をもとに整理した状態のものである。今度は、逆に見ていきながら足りないところをご意見いただき、新規事業も含めて検討していくことだと思う。
- 【倉持委員】この体系図の枠組みそのものを組み替えることも含めて検討するのか。
- 【事務局】今までは基本施策の文言でご議論いただいていた。今回、改めて基本施策の内容の説明や事業例を提示させていただいた。組み替えも含めてご議論いただきたいと考えている。
- 【倉持委員】体系図の見え方も大事だと思う。現在の体系で言えば、前半の体系より後半の体系に重点施策が多くなっている。ほとんどすべてに「支援」や「提供」という言葉の繰り返しは施策の考え方や基本施策のところに入っているが、逆に分かりづらくはないか。
- 【事務局】全体的な調整のなかでこのような文言になっている。体系図では重複するが、個々のものを文章表記していくなかで説明する場合は末尾があるほうが分かりやすい。最終答申をとりまとめるなかで基本施策ごとに文章を入れ込みたい。
- 【倉持委員】今回のパブリックコメントで、「中間のまとめ」に入っていないと指摘された事項も実は入っているものもある。見えづらいということなのでは。施策の体系の枠組み、表記の仕方を含めて再検討したい。

- 【富川委員】 体系図の横軸に年代や分野、場所ごとに分けられないか。
- 【渡邊委員】 おそらくマトリックスにしていくということだと思うが、この生涯学習の段階を示した構造上だと難しい。
- 【事務局】 以前、社会教育委員会のなかでご提案いただいたものに事業ごとに年代別に整理していただいた資料などもある。施策レベルでまとめるのか、事業のレベルで年代的などに整理していくのかという考え方があると思う、どちらが適切かは検討させていただきたい。
- 【渡邊委員】 社会教育委員の提案は、事業ごとに分けて対象者ごとに分類したもの。ただ、今回のような施策の考え方をどのように組み入れて整理するかについては人によって違うので難しい。初めてなのか、継続的な参加なのかなど発展段階と年代は必ずしも一致しない。
- 【倉持委員】 本計画は既存の事業だけでなく、足りない事業についても提案してよいのか。既存の事業についてどう考えればよいのか。
- 【事務局】 今後10年間に必要な事業であれば、新規事業を具体的に加えていく形になると思う。既存事業については、生涯学習の視点で拾い出しているの、それだけで「継続」「廃止」の議論は難しい。
- 【渡邊委員】 重点施策はまだで足りないものもあるように思う。青少年から働き盛りの世代にどこまで生涯学習の場を提供できるのかという視点がまだ薄いと思う。また、社会教育委員との意見交換でも出されていた歴史を知って初めてその先を知ることができるという、歴史的な背景を知る機会については、基本施策の文言で入ってくるとよいと思う。
- 【倉持委員】 個別具体の新規事業というよりは、もう少し大きな枠組みで新しい視点を計画に盛り込むことは必要かもしれない。
- 【小町委員】 基本施策や施策の考え方レベルで足りないものは付け足す必要もあると思う。基本施策までの文言は非常に大事であり、基本施策の言葉を読んで想像がつかないものはどうかと思う。例えば、2-1-4基本施策「チャレンジ支援」の言葉や2-2-7基本施策「専門的に深く学ぶきっかけづくり」などの言葉は分かりにくい、必要な施策であれば文言を変えて分かりやすくする必要がある。
- 【渡邊委員】 施策の入れ替えや新たな施策を検討するとなると基本目標のレベルまで波及する可能性もあるが、そこまでは難しいと思う。中間まとめ10ページの施策体系の図は変えないほうがよいと思う。分かりやすいという意味でも「支援」などの言葉はしっかり明記されていてもよい。
- 【委員長】 大事なのは基本施策。答申に事業例は必要ではないか。
(全員賛成)
- 【小町委員】 事業例は、既存の事業だけでなく将来的に考えられる事業も例として入れておくことが大事だと思う。例えば、4-3-1基本施策「武蔵野らしい文化の醸成」の事業例をみるとジャズやアニメなどの事業だけが入っており、武蔵野らしい文化といえは歴史も入ってくると思う。

- 【富川委員】中学生や高校生に対する基本施策や事業例なども足りないと思う。
- 【渡邊委員】1-2-3基本施策「学びのアクセシビリティ」など一般的に分かりづらいカタカナ言葉は注意が必要だ。
- 【事務局】その他、社会教育委員会との意見交換会で出されたご意見を確認したい。
1点目に基本目標3「学びの成果の共有」は、「共有」の段階でよいのかどうか。2点目に3-2-2基本施策「市民参加による事業運営支援」と4-2-3基本施策「学びの活動から地域への還元（団体主催）」の内容が同じではないか、整理が必要。3点目に、4-2-4基本施策「学校教育支援活動の促進」は学校教育の支援または支援活動自体の支援ととらえるのか文言の整理必要とのご意見をいただいた。
- 【倉持委員】「共有」は仲間づくりの段階で、市民文化の発信はさらに社会に出ていくというイメージではないか。その意味では4-1施策の考え方「発表や交流の促進」と3-2施策の考え方「共助につながる学び」が逆転しないかどうか。
- 【委員長】「共有」からの発展段階を基本目標4と考えれば、「発信から還元」という整理になると思う。
- 【事務局】事務局としても3-2-2基本施策「市民参加による事業運営支援」と4-2-3基本施策「学びの活動から地域への還元（団体主催）」は入れ替えたほうが整理できる可能性があると考えている。
- 【倉持委員】4-2-3基本施策「学びの活動から地域への還元（団体主催）」は事業例をみると人材育成という視点で「学びを支える市民を育てる」という括りもできると思う。
- 【小町委員】基本目標4の大項目をどう扱うかで変わる。発展段階とみたほうが分かりやすい気がする。「武蔵野らしい」という文言をどう扱うか。
- 【倉持委員】基本目標4「武蔵野らしい市民文化の発信」から「武蔵野らしさ」を外し、4-3施策の考え方を「武蔵野らしい文化の醸成と魅力あるまちづくり」にしたほうが、発展段階が見えやすくなると思う。
- 【委員長】発展段階的な形で整理し、検討してみたい。
- 【事務局】基本目標6「次世代へむけてのメッセージ」について、平和が入るのは違和感というご意見をいただいた。また、施策体系上、基本目標1から5のすべてを受けの形の体系であることについて、生涯学習はすべてが将来に向けた学習であるのではなく、現時点での学びを支えるという意味もあるので違和感がないかとのご意見をいただいた。
- 【富川委員】施策の体系は段階的にとらえる考え方であると思うが、上下の関係ではなく波紋のように広がっていくイメージではないか。結果として次世代につながればよいと思う。
- 【委員長】「次世代にむけてのメッセージ」は言葉を考えたほうがよいかもしれない。メッセージというよりは波及効果の話ではないか。
- 【飛山委員】「メッセージ」と言わずに、「次世代にむけて」で止めてもよいと思う。

- 【倉持委員】「次世代にむけて」にまちづくりなども入るとなると、4-3施策の考え方「新しい文化の醸成と魅力あるまちづくり」との調整が必要だ。
- 【委員長】 4-3施策の考え方「新しい文化の醸成と魅力あるまちづくり」を基本目標6「次世代にむけてのメッセージ」に移すことも検討したい。
- 【事務局】 これまでの策定委員会での議論では、基本目標4は「横の広がり」であり、基本目標6は過去・未来を含めた「縦へのつなぎ」と捉えられている。
- 【渡邊委員】「施策の考え方」は基本目標4まではあるが、5と6にはない。基本目標5は、「基盤」、「連携」、「情報と組織」などに分け、基本目標6は「現代的課題と人材育成」や「武蔵野らしさ」で施策の考え方を加えられないか。
- 【富川委員】 次世代にむけて何を残すためにこの計画をつくるのかという基本的なこともふまえて検討する必要があると思う。
- 【委員長】 基本目標6は、もう少し基本施策を充実していく必要があると思う。
(全員賛成)

◆その他の課題の検討について

- 【事務局】 計画策定後の進行管理について、社会教育委員から自ら計画の進行管理に関わるとのご提案をいただいた。本計画は市の様々な事業を生涯学習の視点から整理しており、各事業は生涯学習以外の事業の趣旨、目的を持っている場合もある。一定のものを抜き出しチェックするという事ならば考えられると思う。
- 【渡邊委員】 一つの案として、社会教育委員が計画の進行管理のお手伝いをするというご提案をさせていただいたものである。市の決定にお任せする。
- 【倉持委員】 計画のなかに評価の機能をもたせるということは大事である。個人的な意見として、行政の事業を生涯学習というテーマで横にクロスしたことは意義があると思っている。費用対効果ではなく、生涯学習だからこそできる評価、確認作業はしていくことも大切だと思う。

3 その他

次回以降の日程について

- ・次回策定委員会 12月25日(金) 19時 地域自由大学交流センター
- ・次々回策定委員会 1月25日(月) 19時 地域自由大学交流センター

4 閉会